

Title	新入出力棟の開館にあたって
Author(s)	関谷, 全
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1980, 37, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65443
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

新入出力棟の開館にあたって

センター長 関 谷 全

大学においては、研究者の多くが夜おそくまで仕事をするタイプであるのに対して、計算センターは事務所の仕事の終了と同時に閉館してきた。海外での研究経験者の多くは、計算センターと図書館だけは夜おそくまで、場合によっては夜通し開かれていて非常に便利であったことを体験されたことと思う。

日本の科学技術が欧米のそれに追付き追越すためには、大学で少なくともそれと同等なサービスはすべきであるとの声も高い。一挙にそこまではいけないにしても、今回それへの第一歩として新入出力棟を開館して5時以降も利用者入力、グラフィックディスプレイおよびバドミントンプリンター等の利用ができるようにした。周辺の土地の余裕ならびに主機から伸ばしうるケーブル線の長さの制約もあって主機室の裏の奥まった場所になり、雨天の夜などご利用しにくい位置になったことに残念であるが、その日の仕事にラストヘビーをかけて頂くのに少しでもお役に立てば幸である。

現在の主機は、バッチとTSSの両タイプのジョブを並列処理しうるシステムなので、バッチジョブの投入量の増大は同時にTSSユーザの利用時間帯の増大にもつながる。現在省エネルギーということですべてが打切られ気味になっているが、そのような時こそ研究能率を上げる努力を積極的にすべきと考えられるので、これを機に利用者のかたがたが今までも増して当センターを有効にご利用頂くことを祈ってやまない。

